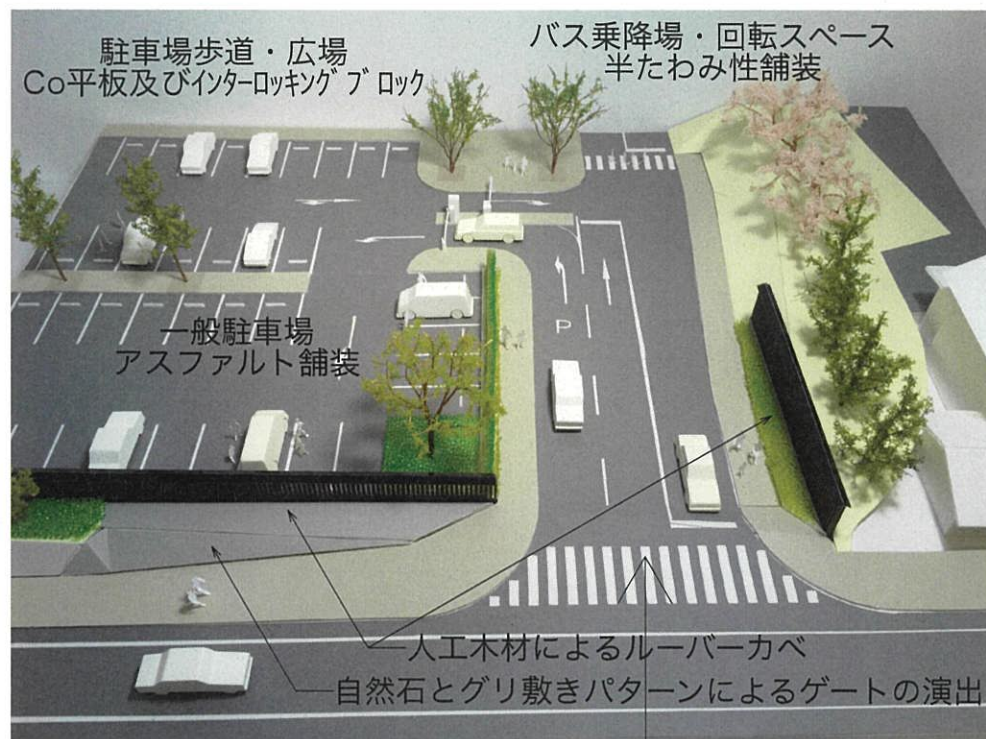


検討中



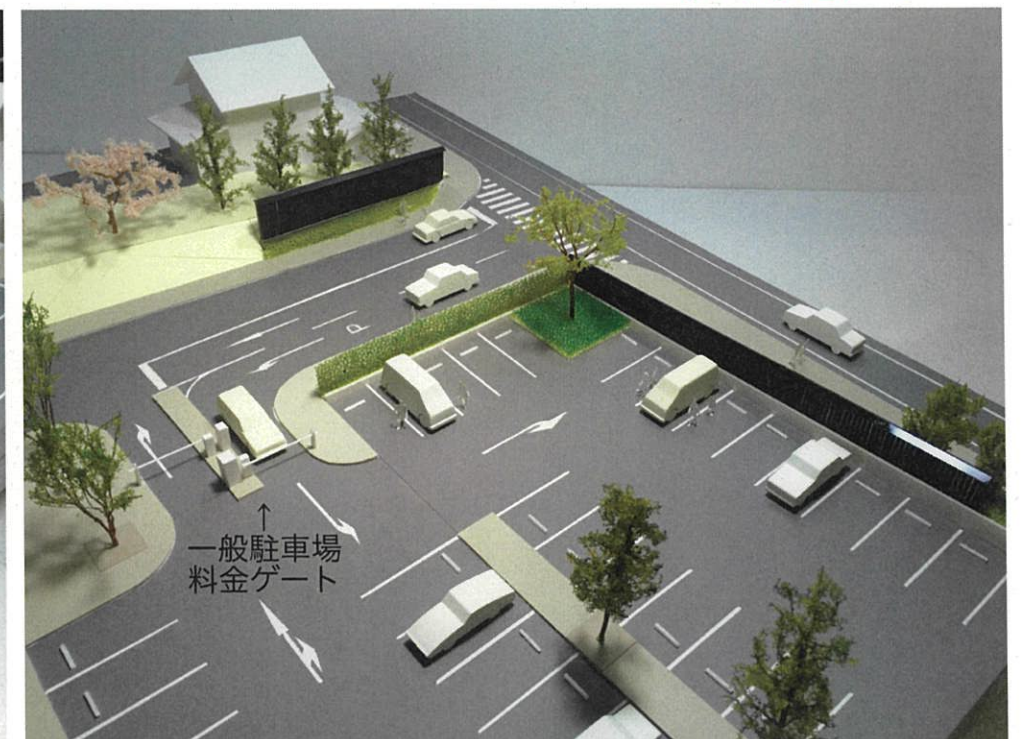
全体平面図 (S = 1 : 1 0 0 0)



駐車場ゲート周り（国道側よりの俯瞰）

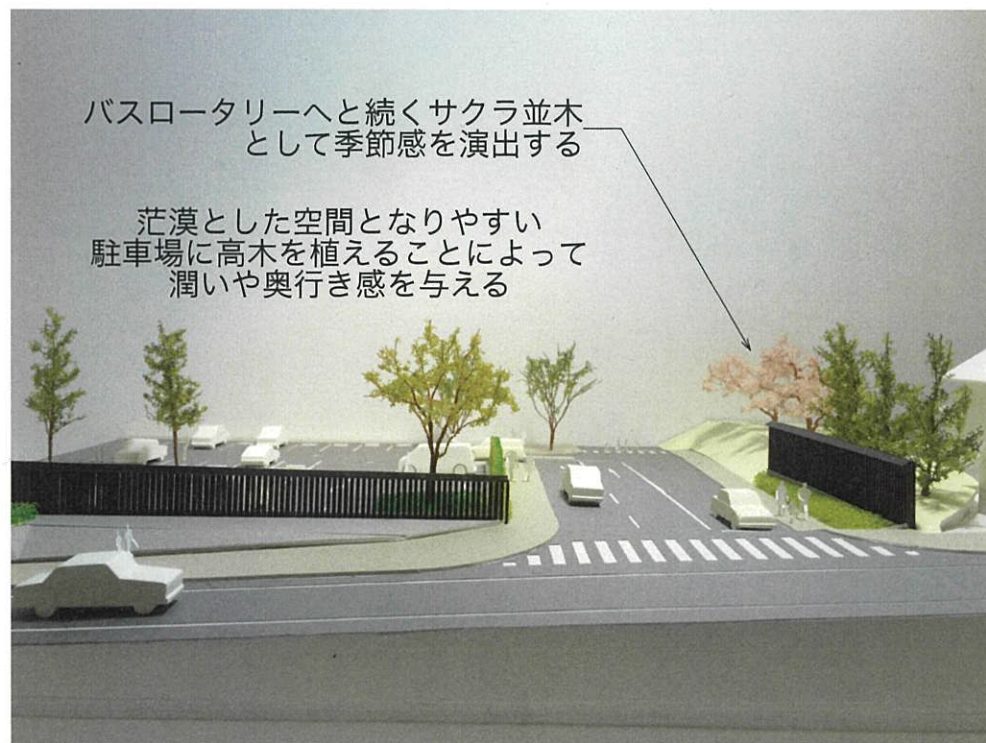


駐車場ゲート周り（国道 山側よりの俯瞰）

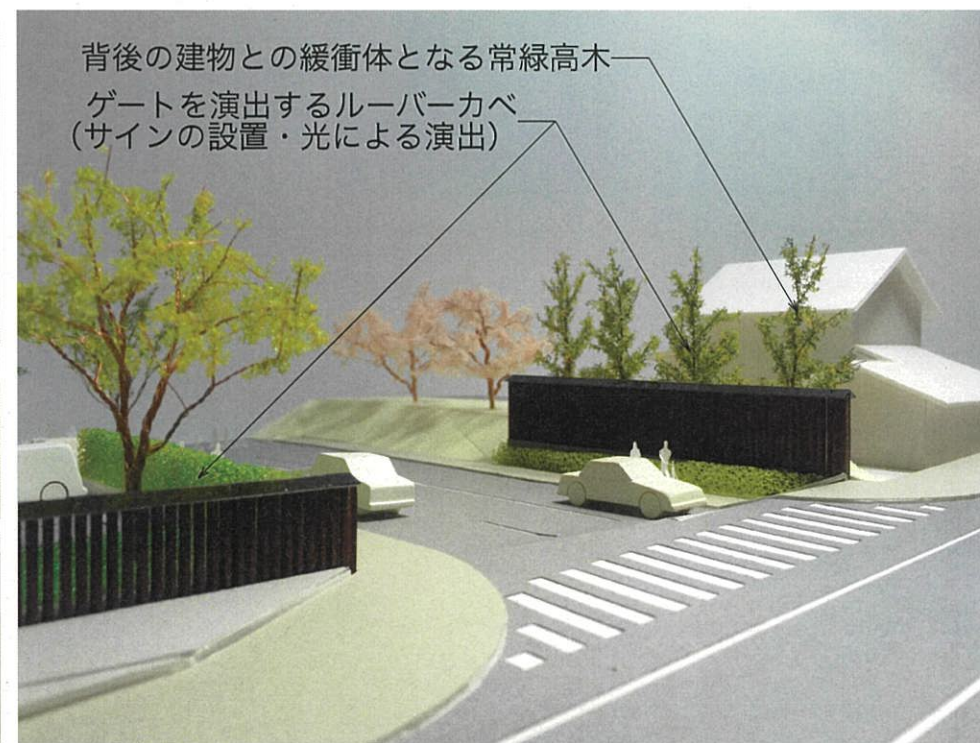


駐車場ゲート周り（駐車場側よりの俯瞰）

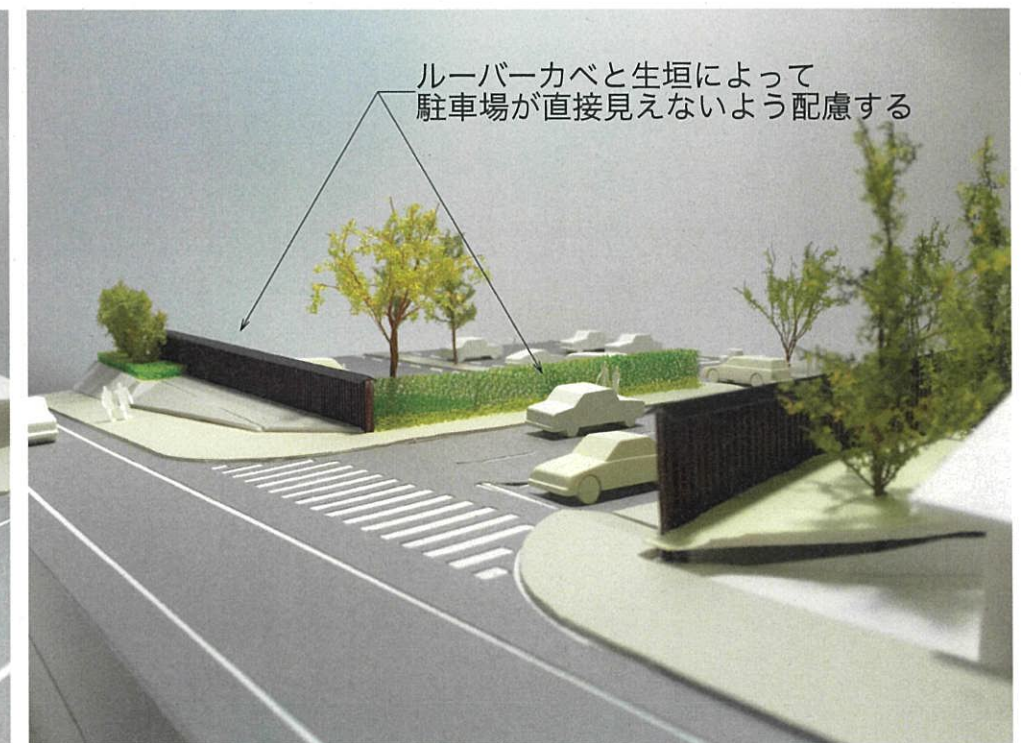
交差点協議中
・駐車場進入路幅員減少
・横断歩道、停止線位置、隅切りの変更



駐車場ゲート正面

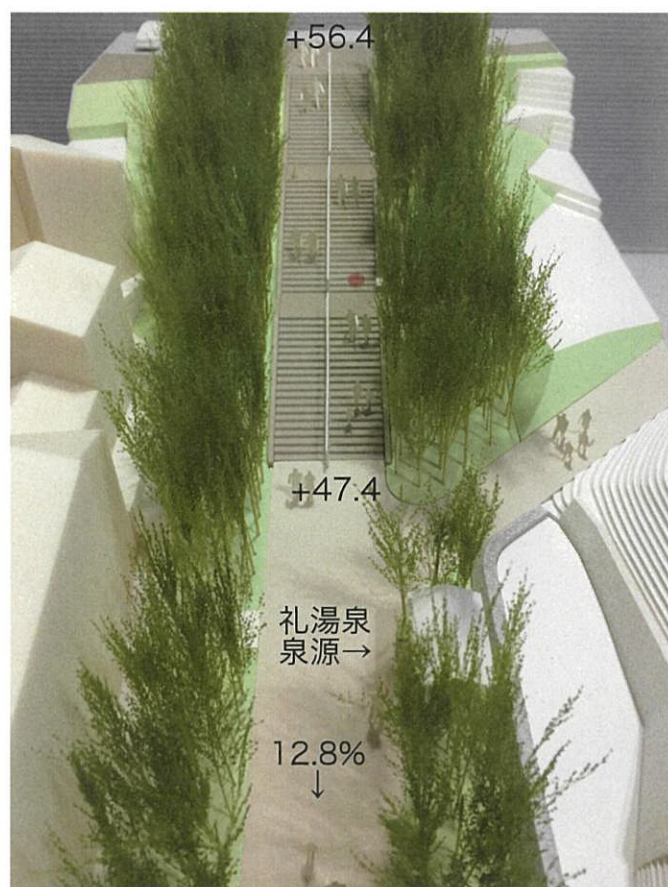


駐車場ゲート（国道南側からみる）

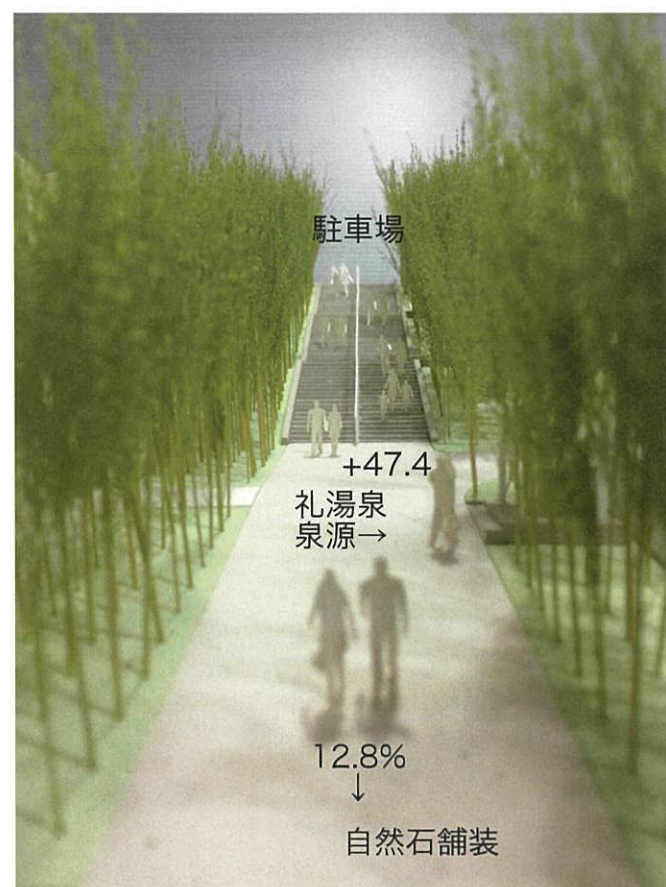


駐車場ゲート（国道北側からみる）

駐車場ゲート周り



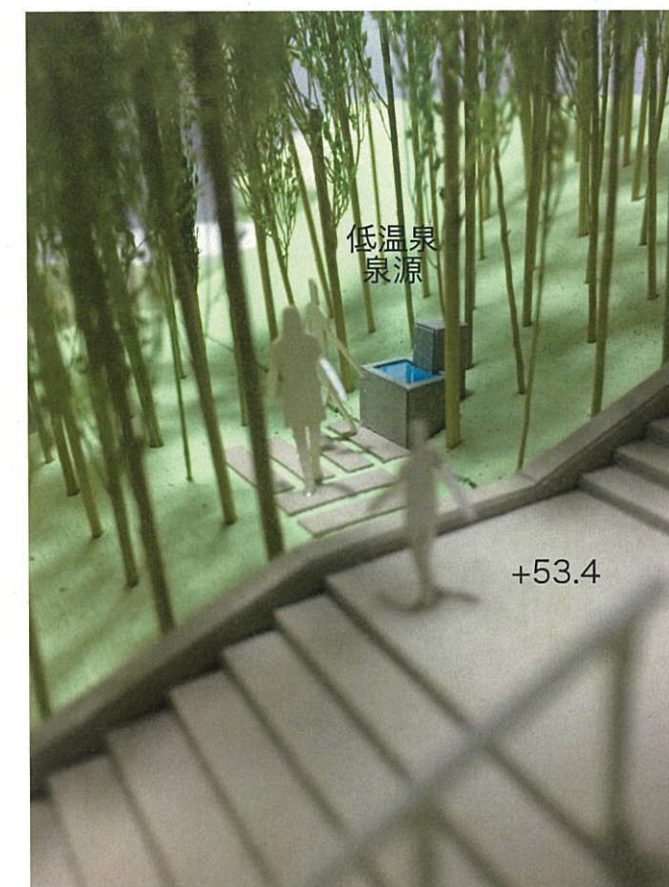
竹林の階段全景



竹林の階段を川側から見上げる



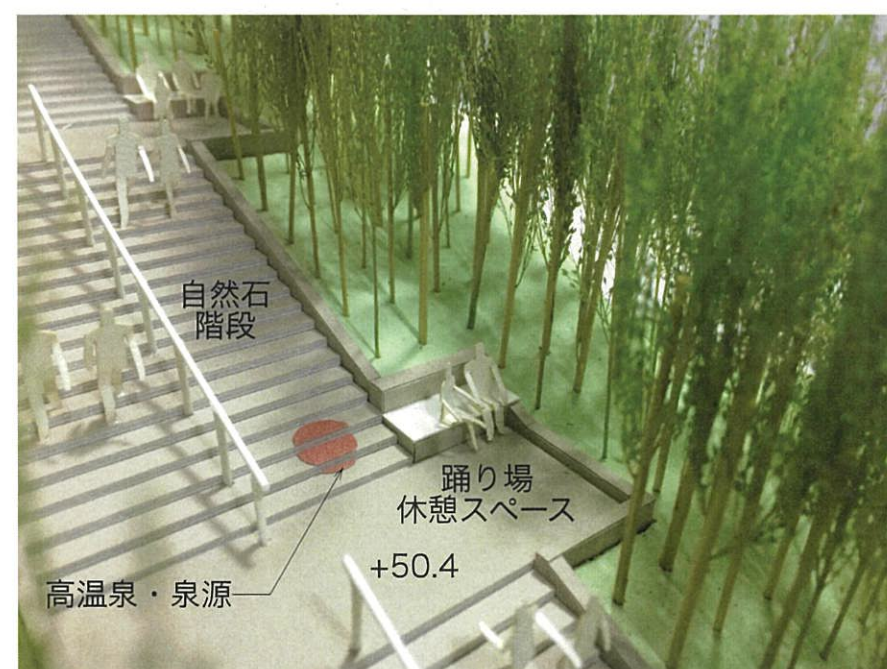
竹林の階段を駐車場側から見下ろす



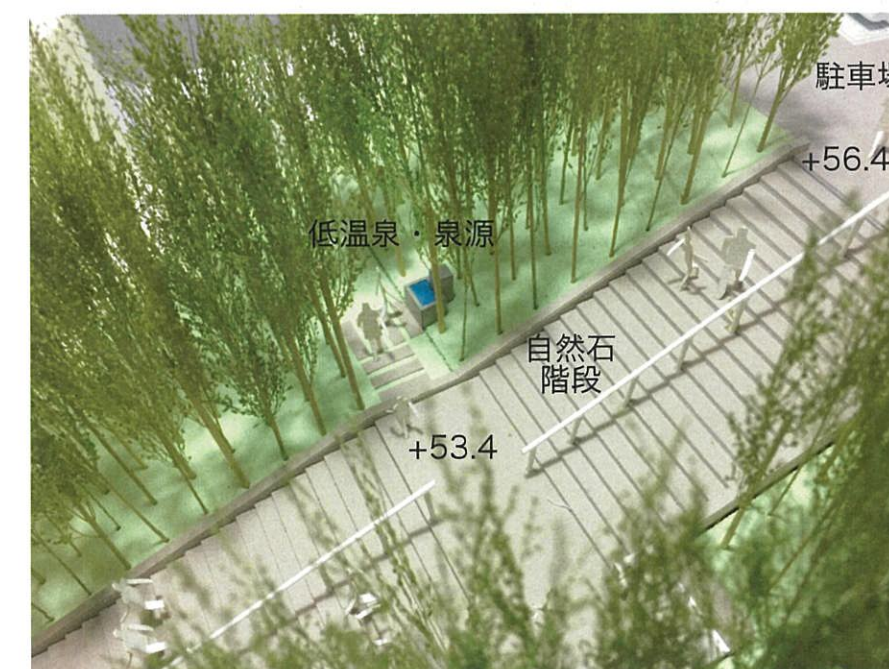
階段脇にある低温泉広場



礼湯泉・泉源は格式ある屋根、水盤、銘板によって構成

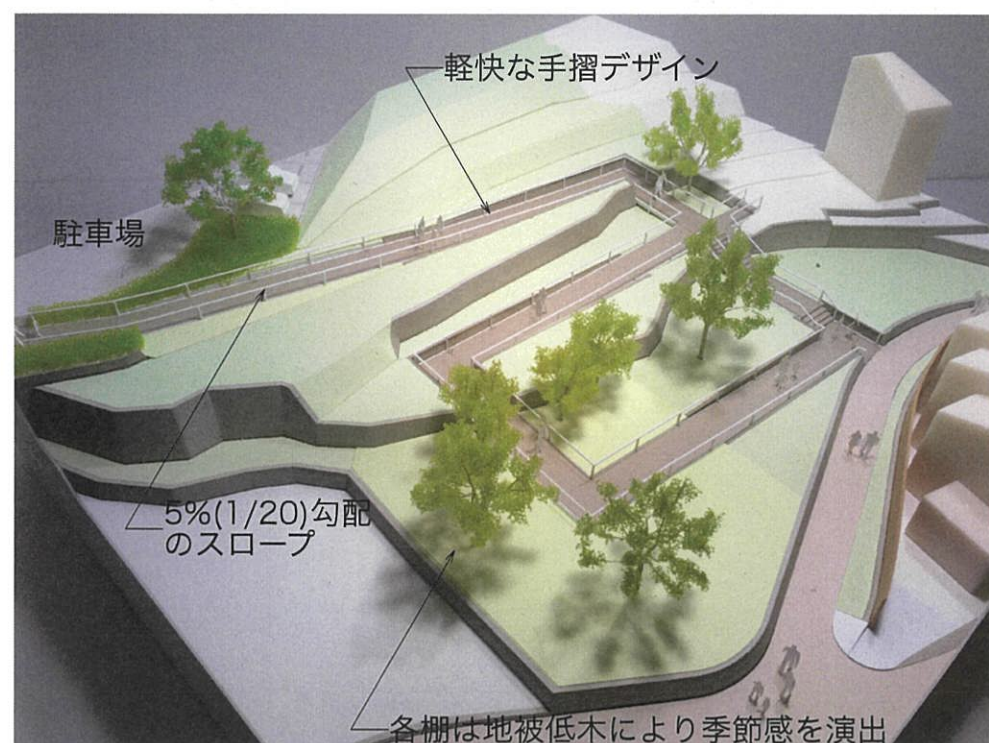


高温泉・泉源は階段下に位置する。現在湯がでていないため、位置を赤石などで示し、付近に銘板を設置

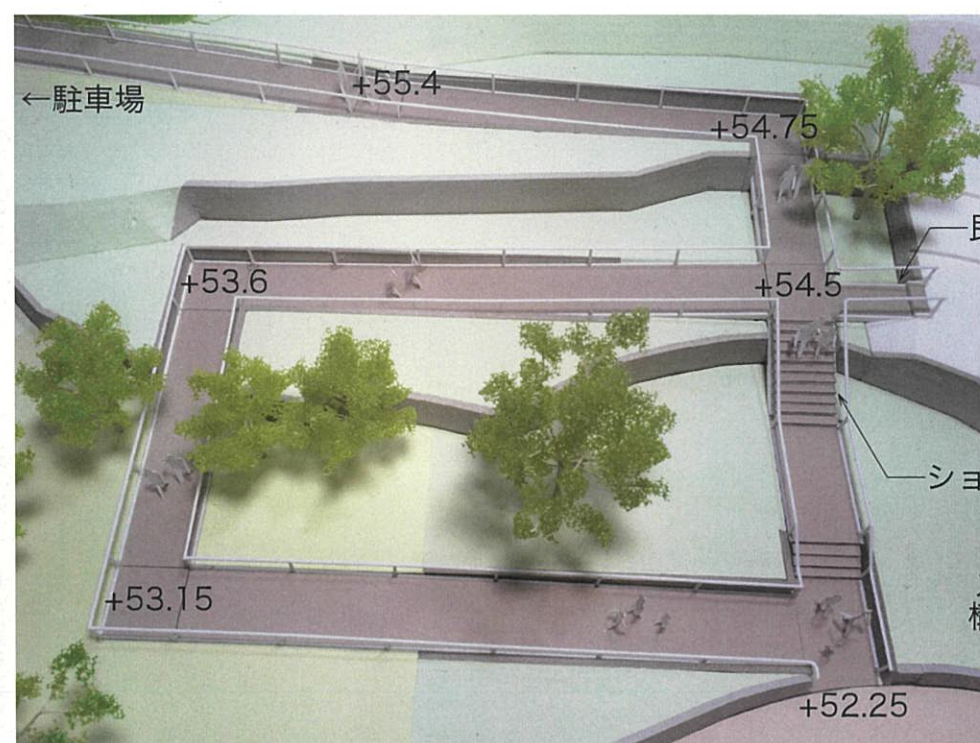


低温泉・泉源は階段脇に位置する。湧出するお湯を利用して水盤、銘板、階段踊り場からの飛び石を設置

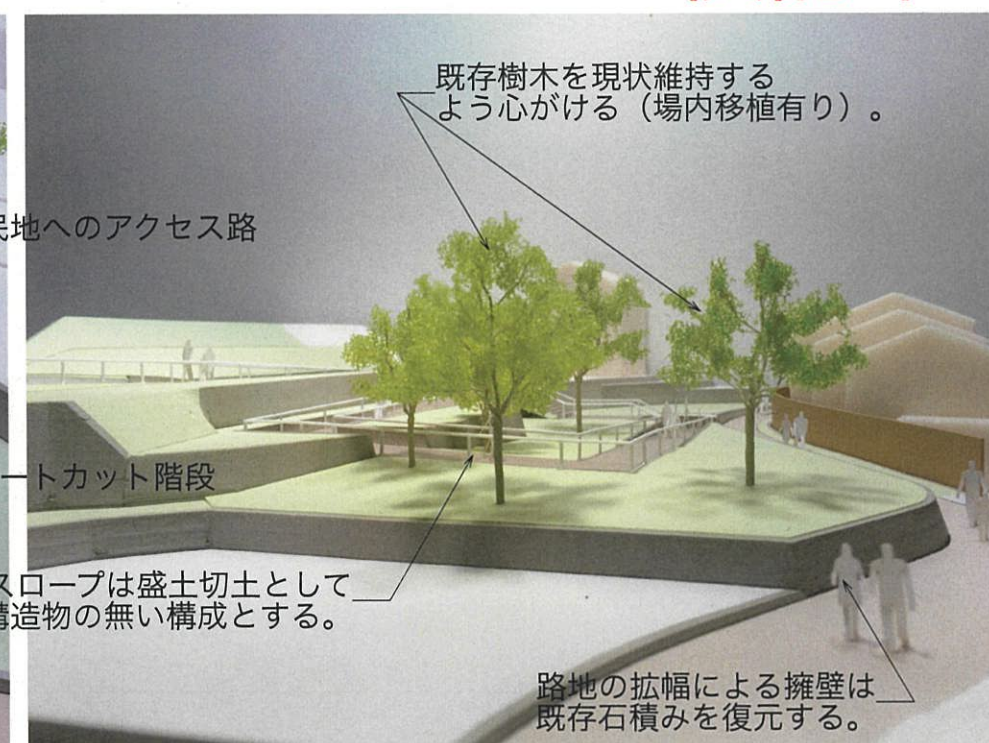
検討中



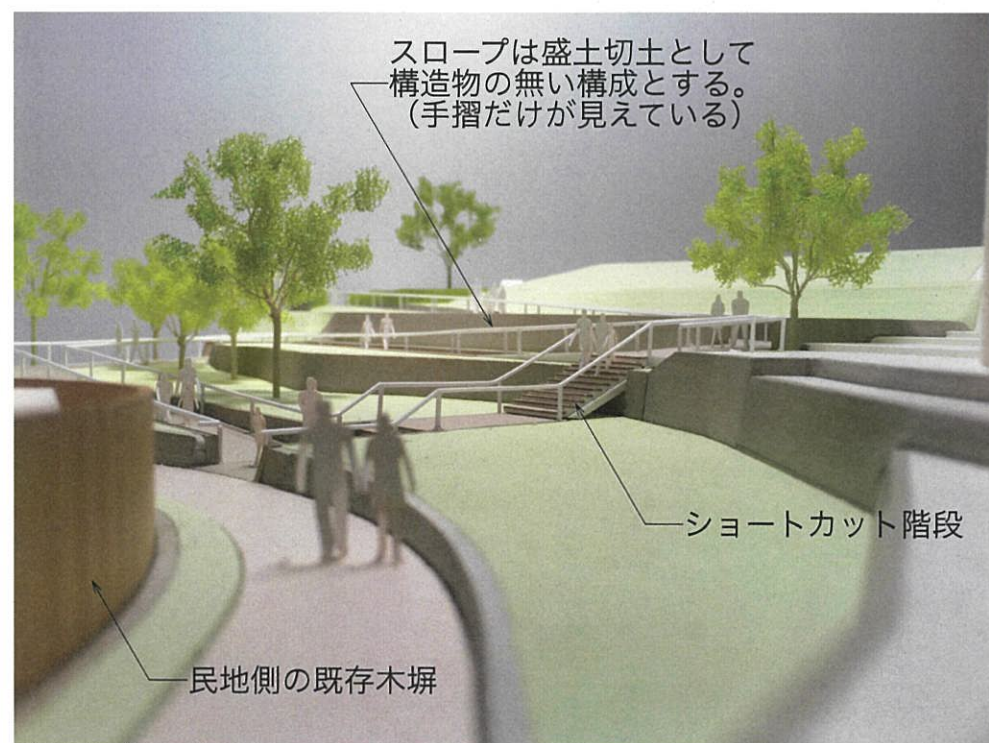
棚田スロープ全景（西側よりの俯瞰）



棚田スロープ全景（西側よりの俯瞰）



路地 竹林の階段方面から見る



路地 紅葉の階段方面から見る



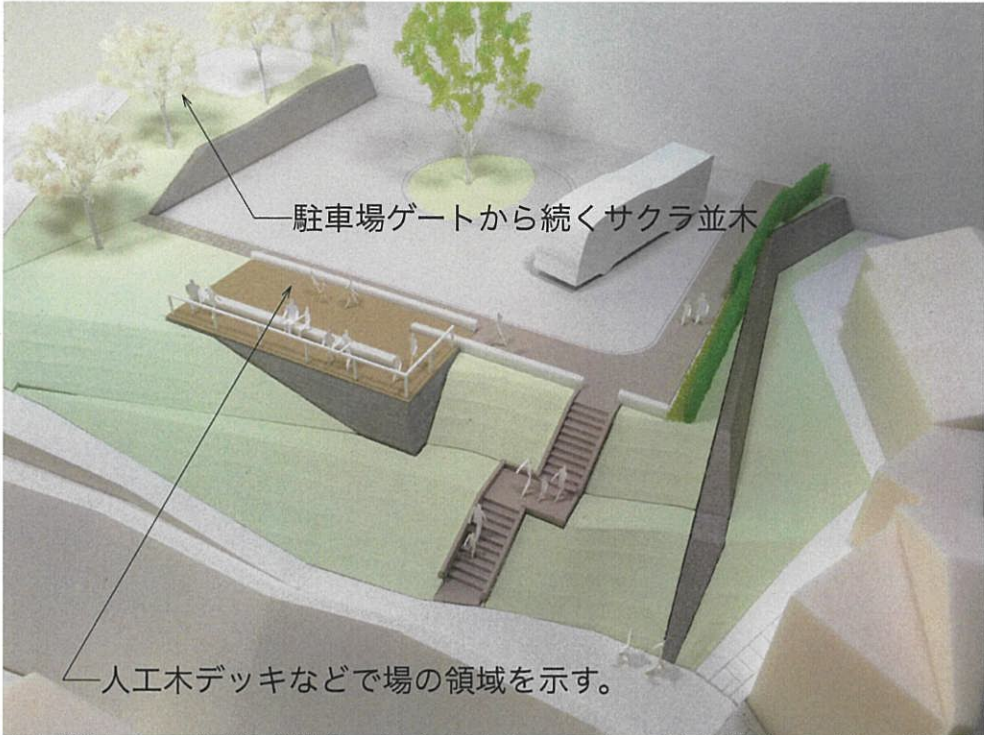
駐車場側から見る



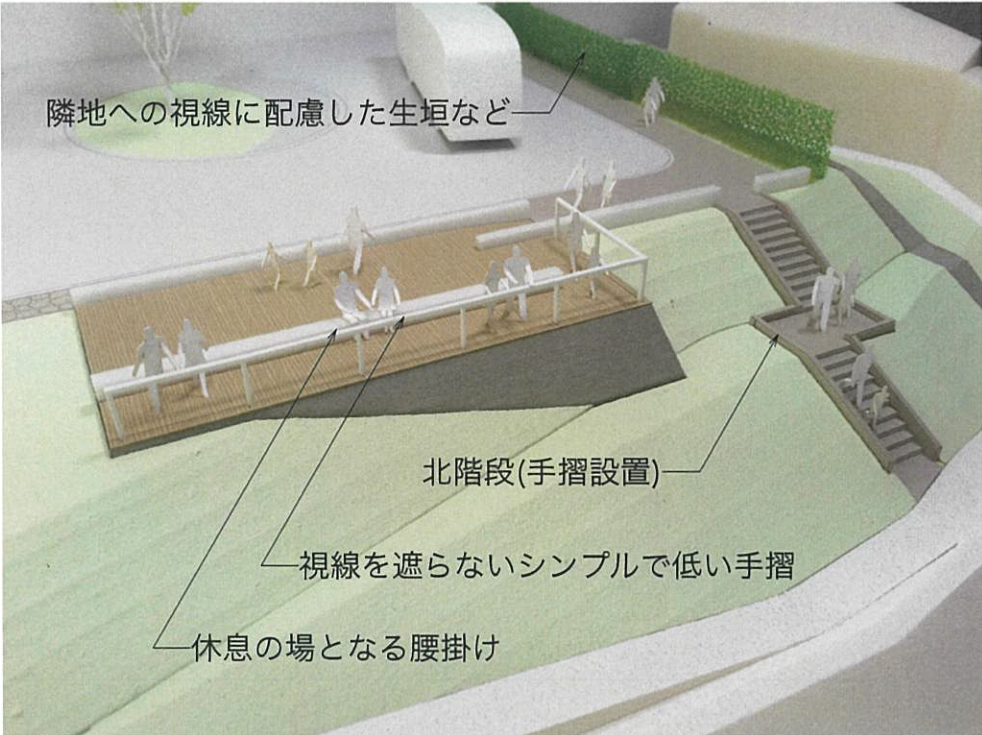
Sloopの盛土切土

棚田スロープ（南Sloop）

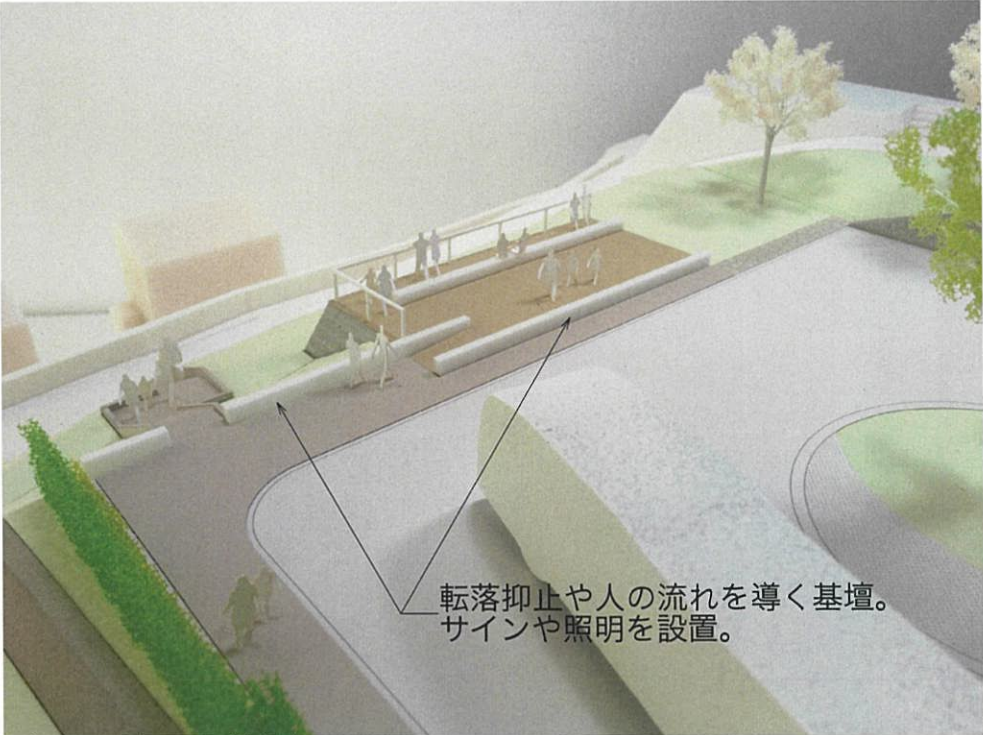
検討中



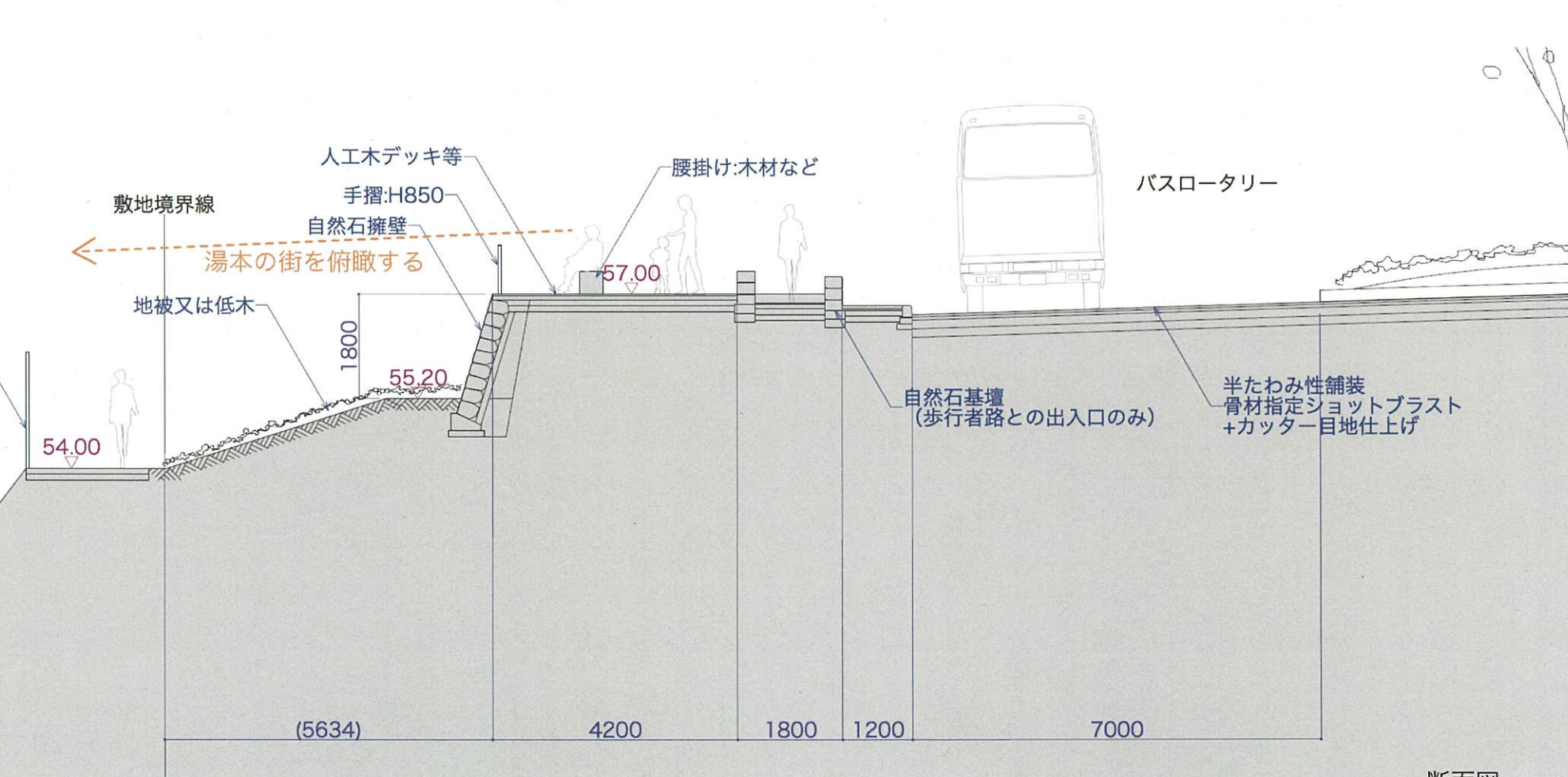
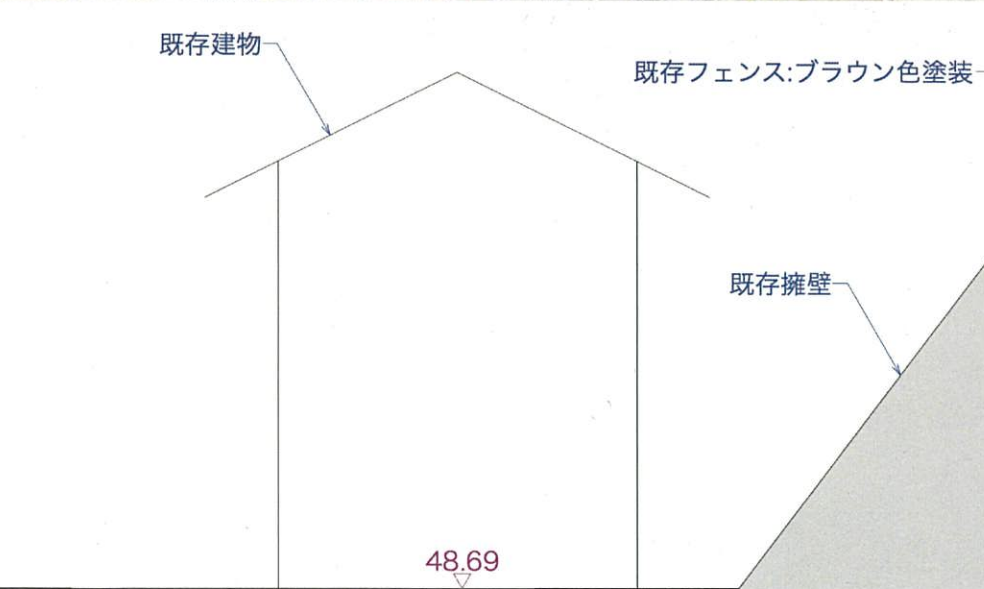
南西側からの俯瞰（模型では表現されていないが北階段に手摺は設置）



西側からみる（模型では表現されていないが北階段に手摺は設置）

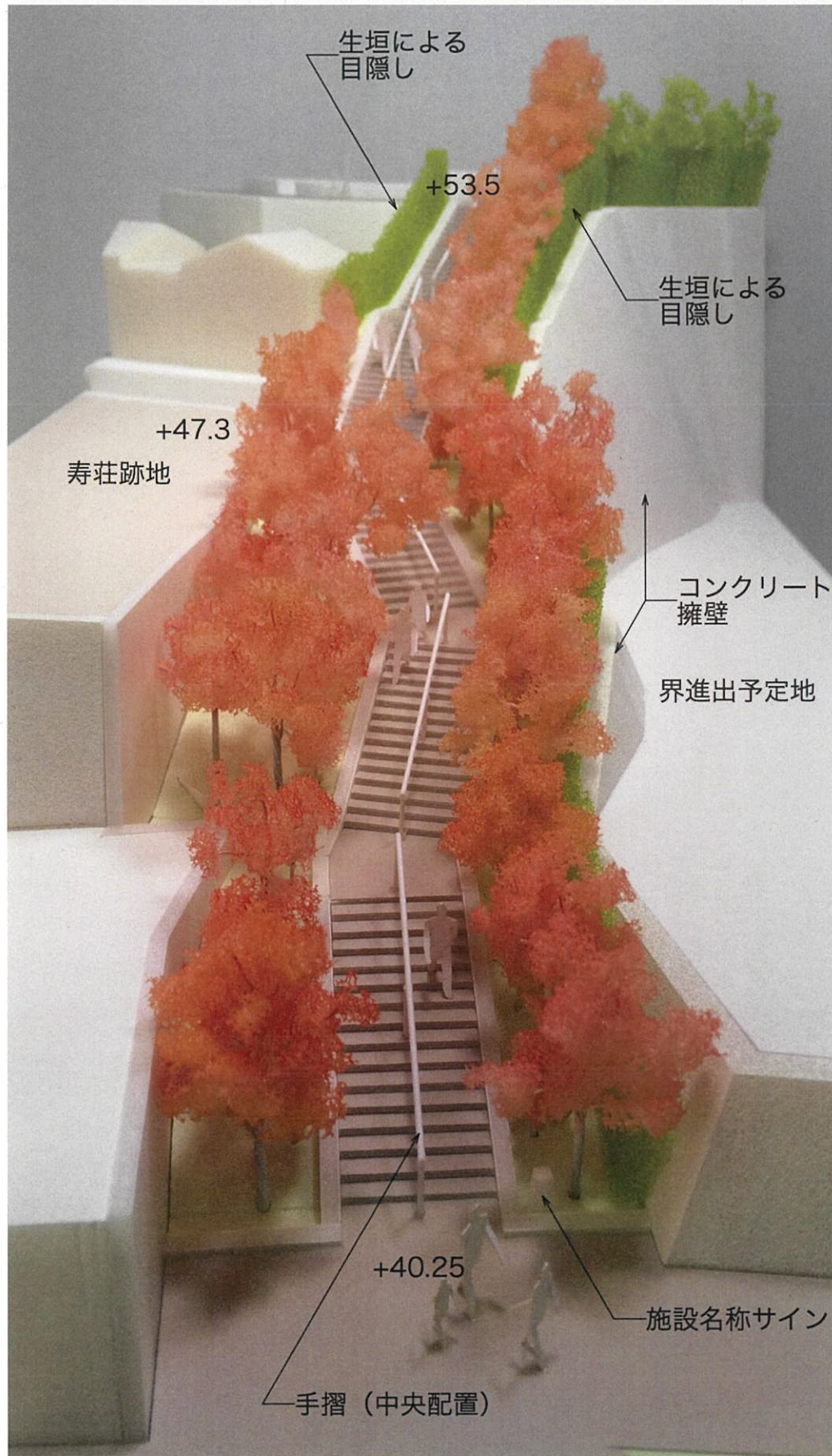


バスロータリー側からのみる

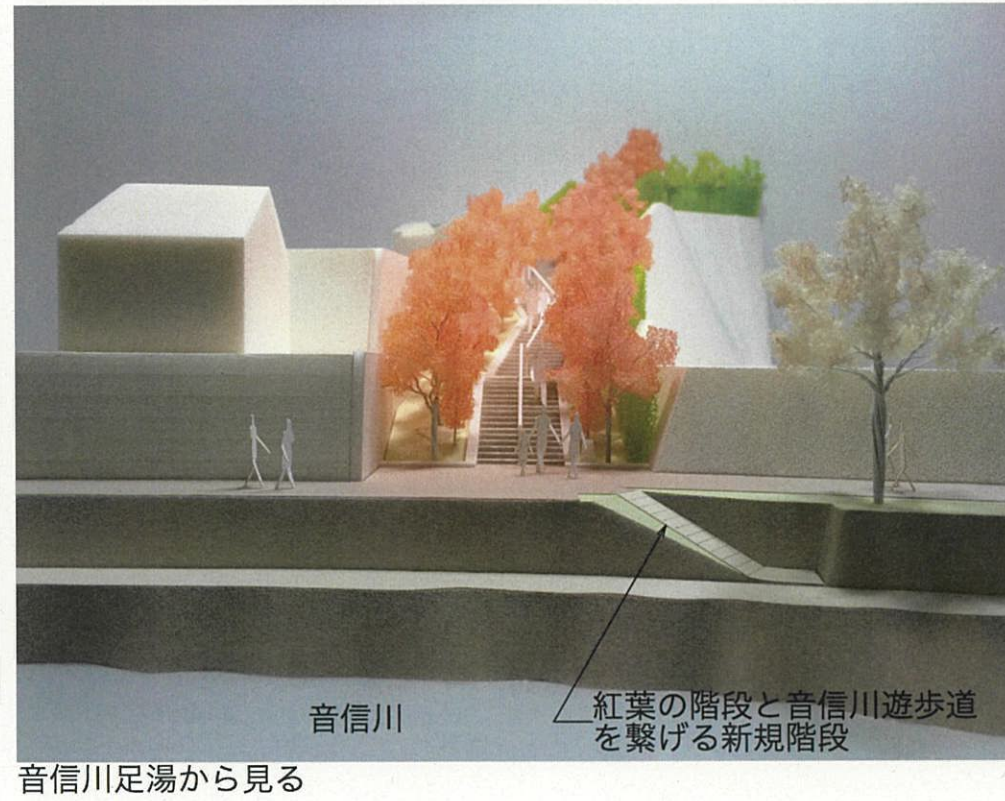


断面図

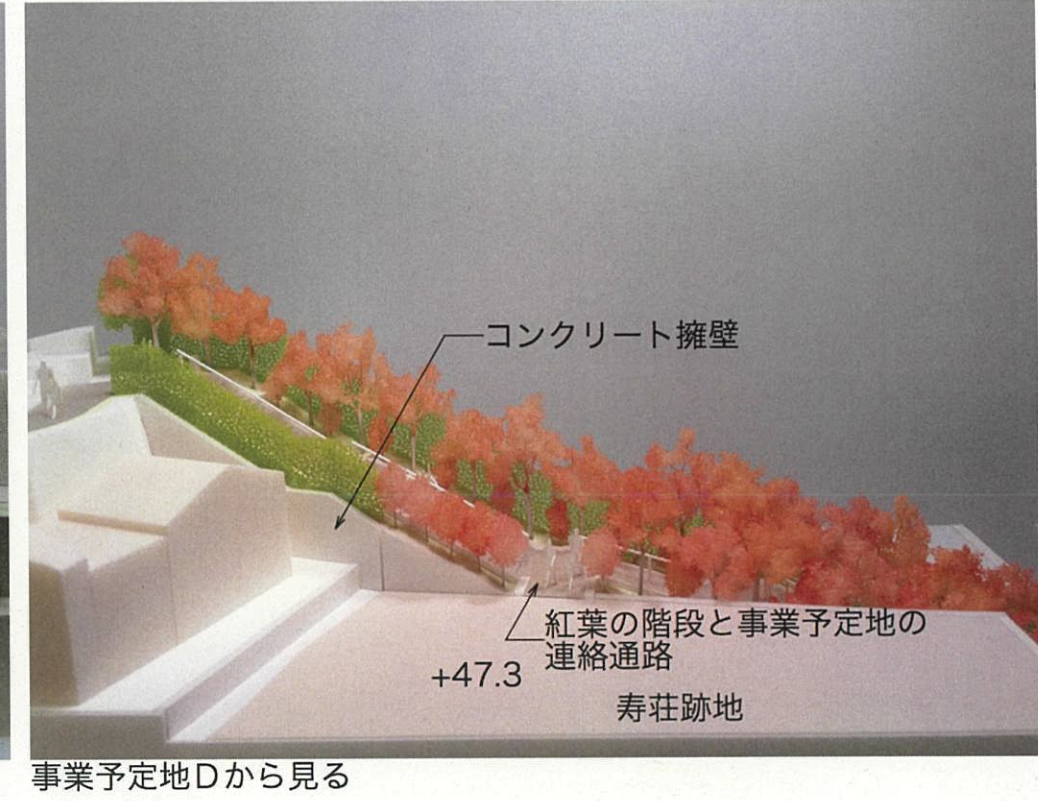
眺望テラス



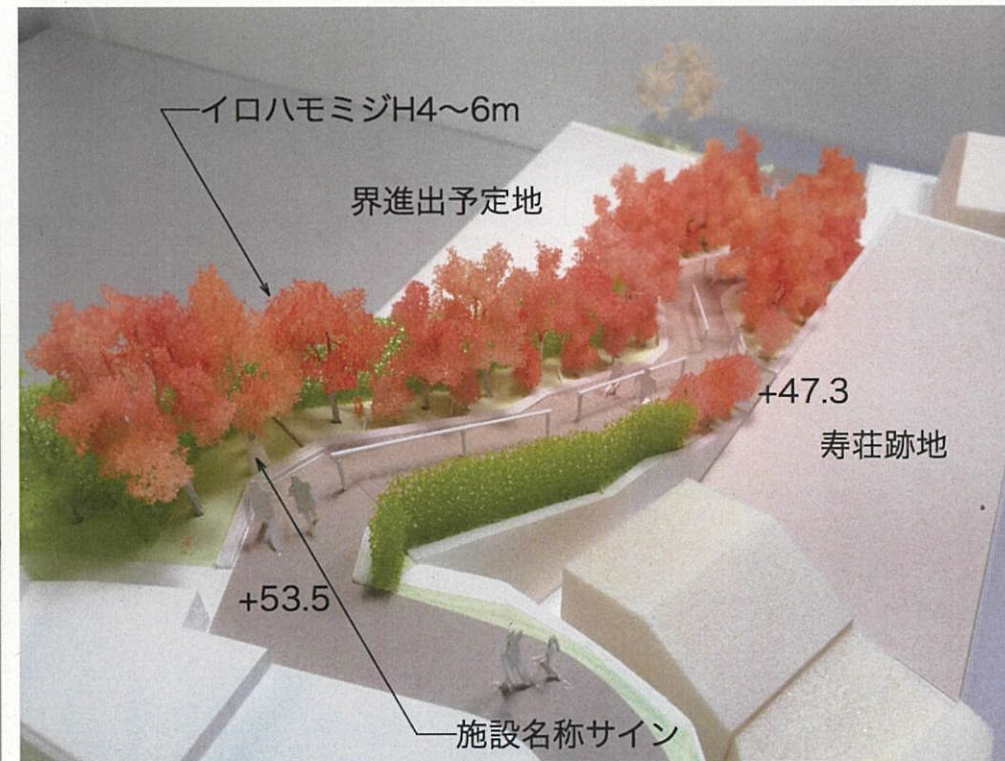
紅葉の階段 全景



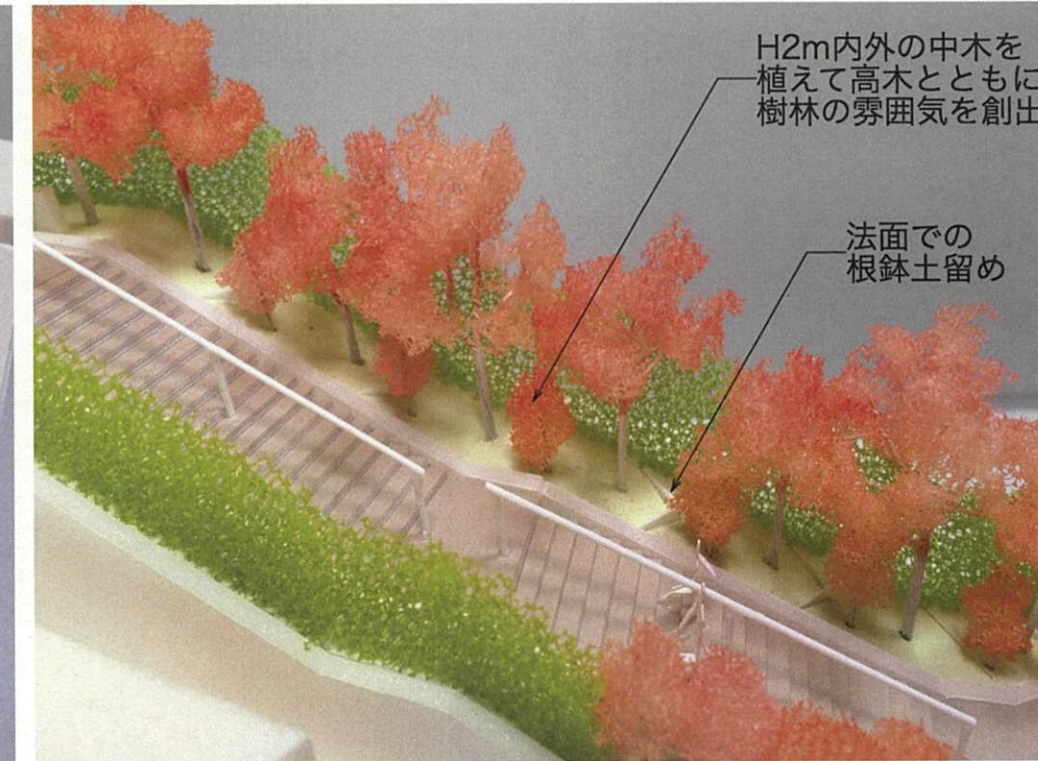
音信川足湯から見る



事業予定地Dから見る



山側からの全景



法面と樹木の関係

■与条件

- ・防護柵：車両用防護柵C種
- ・防護柵高さ：転落防止柵1100mm



『防護柵の設置基準・同解説』（日本道路協会）にて基準が定められており性能確認に関する試験方法も決まっている。
そのため、特注デザインの高柵とするのではなく既製品改良を前提としてデザイン検討を行う。



- ・現況高柵高さ（路面から）H800mm → H1100mm
- ・現況地覆高さ（路面から）H100mm → H250mm
- ・現況地覆幅W250mm → W400mm

防護柵への衝撃度（車両質量、衝突速度、衝突角度）からの影響、橋梁の死荷重（舗装材や地覆形状の変更）などの照査による



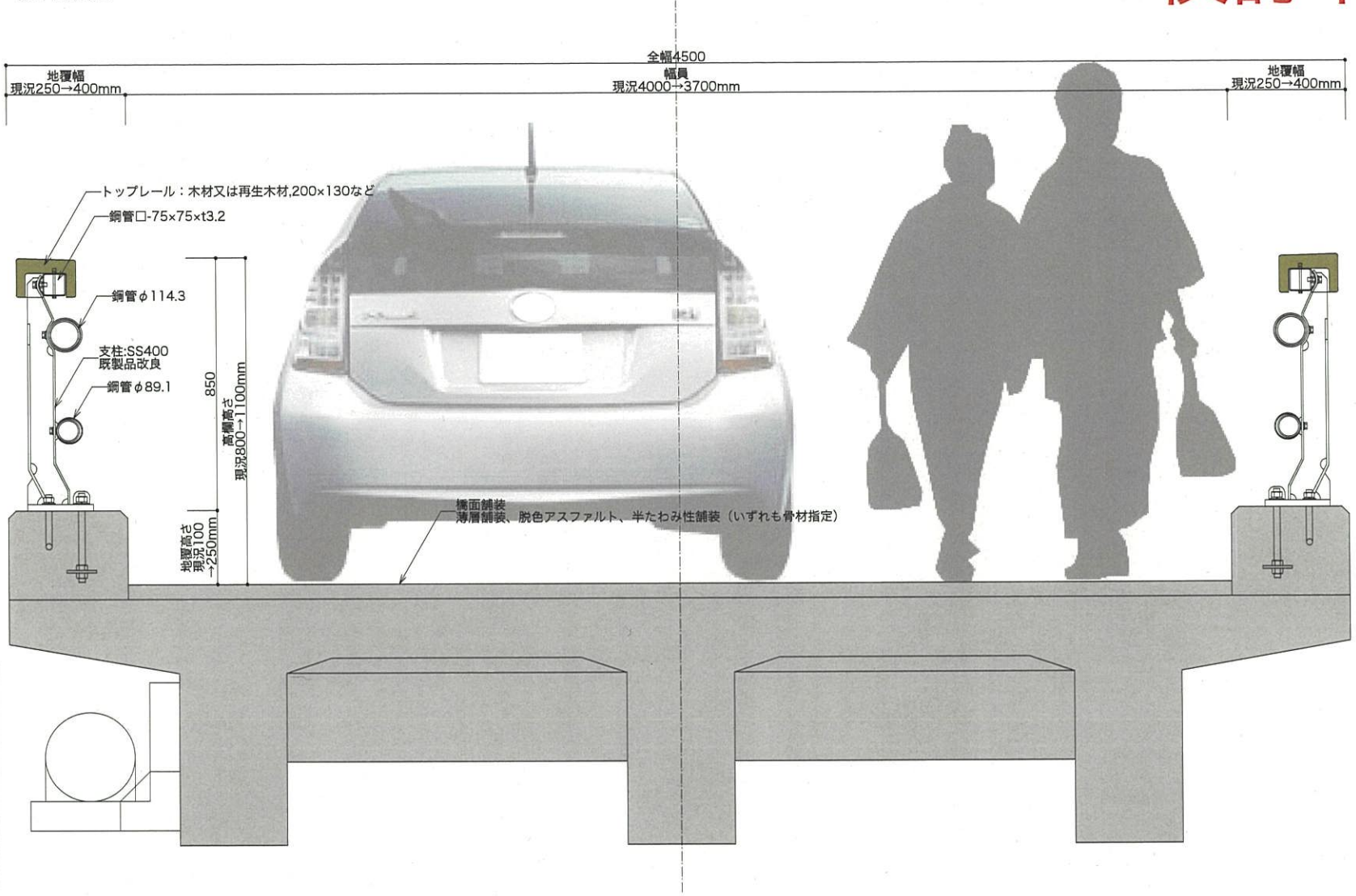
■現時点の検討状況

- ・ビーム3段の構成
- ・トップレールに木材又は再生木材を使用（トップレールを丸から角パイプ）
- ・シンプルな支柱形状の製品選択
- ・路面からの高さをH1100mmにするため支柱を改良

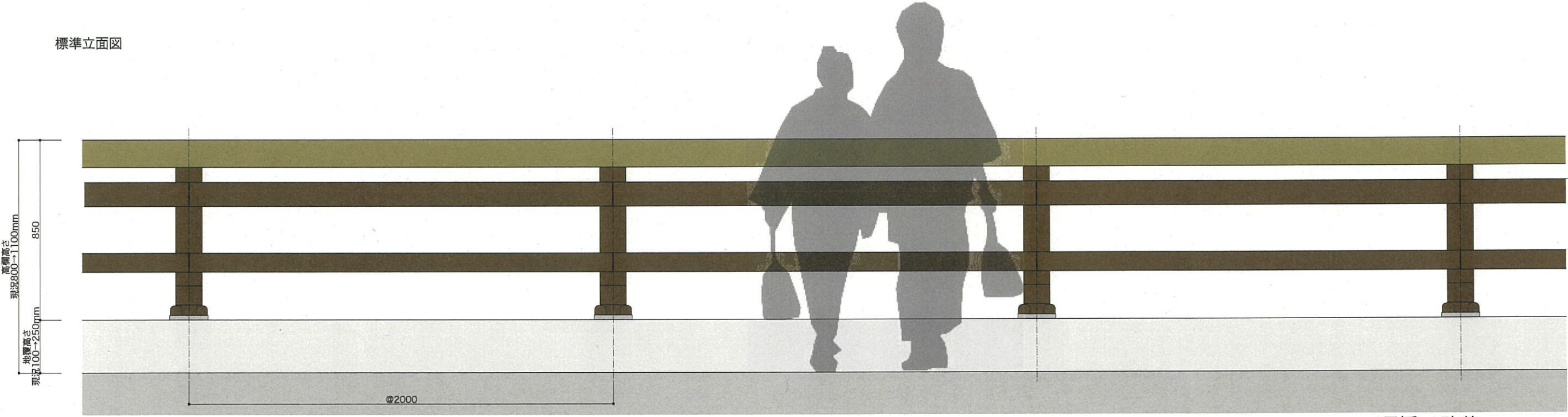
舗装材の候補



標準断面図



標準立面図



検討中

■既存サインについて

現状多種のサインが設置されているが、設置して間もないと思われるサインが多く、全てを新規デザインに更新することは経済的な観点から考えにくい。

↓

既存サインは基本的には現状維持とする。但し、整備区間にある案内サインのなかで情報更新が必要なもの、老朽化が激しいサインは撤去して新規サインを設置する。



国道316号 三ノ瀬～渋木間の風呂桶モチーフの車両系サイン
・手前の樹木があるためサインが認識しにくい。



県道34号線 大寧寺の西方の風呂桶モチーフの車両系サイン
・サイン基壇に雑草がはえている。



県道34号線 大寧寺付近の標識



音信川散策マップ（案内サイン）



国道と県道の交差点にあるおとずれ夜市案内サイン



河川公園と足湯への誘導サイン



国道や県道にある車両系サイン



車両系の観光地誘導サイン



国道と県道の交差点にある長門豊川稲荷への車両系誘導サイン



興阿寺の解説サイン



孝子・千代松の墓の解説サイン



お地蔵様のこみちにある誘導サイン・木製サインが倒れている。



大寧寺境内の解説サイン

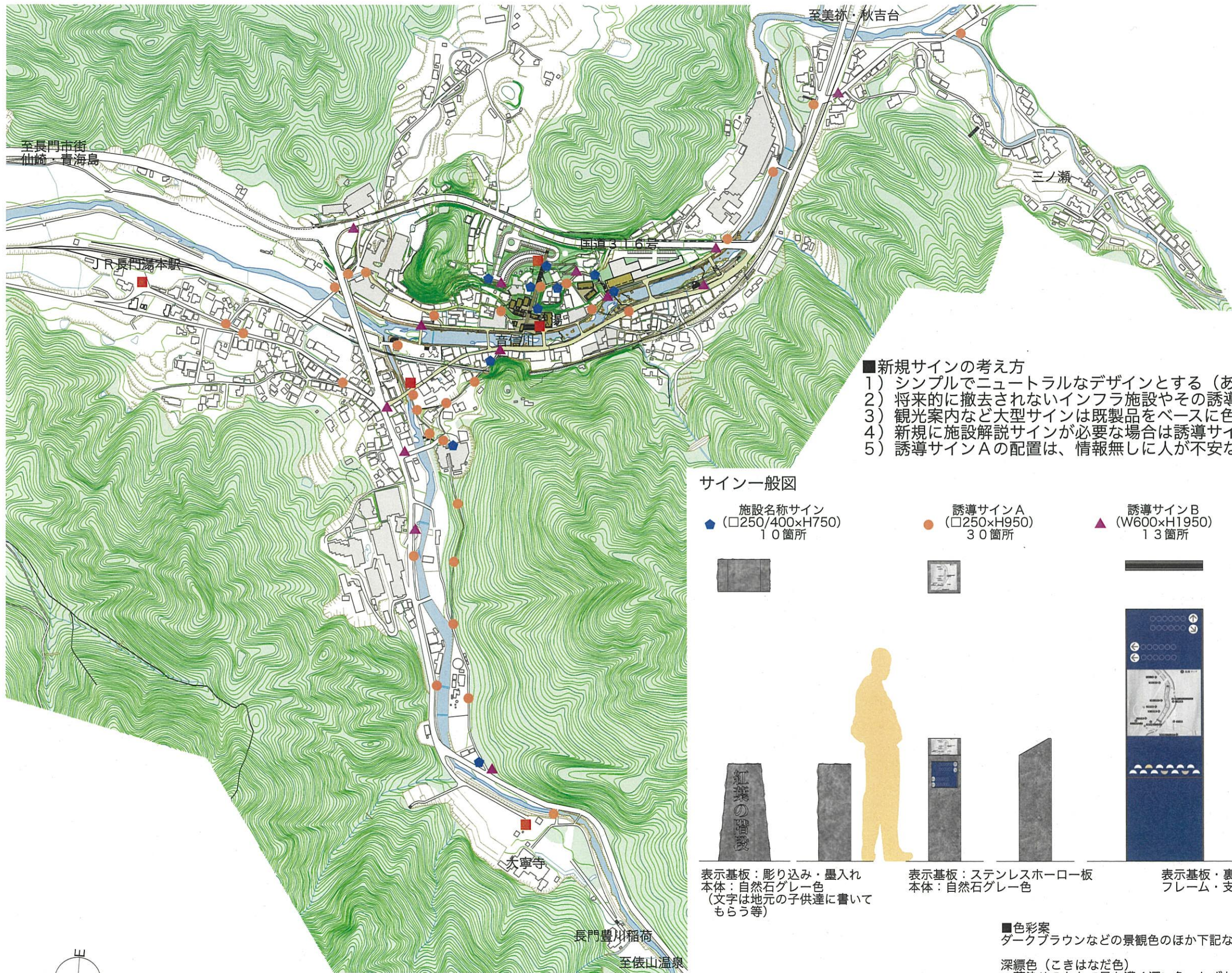


塔の尾公園の解説サイン



三ノ瀬・深川窯の里の解説サイン

検討中



■新規サインの考え方

- 1) シンプルでニュートラルなデザインとする（あえて和風にしない）。
- 2) 将来的に撤去されないインフラ施設やその誘導サインはコンパクトな自然石サインとする。
- 3) 観光案内など大型サインは既製品をベースに色調やグラフィックなどで地域性を表現する。
- 4) 新規に施設解説サインが必要な場合は誘導サインB（高さを抑えた改良版）を基本とする。
- 5) 誘導サインAの配置は、情報無しに人が不安なく歩ける距離150～300mを目安とする。

サイン一般図

施設名称サイン
■ (□250/400×H750)
10箇所



誘導サインA
● (□250×H950)
30箇所



誘導サインB
▲ (W600×H1950)
13箇所



観光案内サイン
■ (W1200×H1950)
5箇所



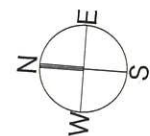
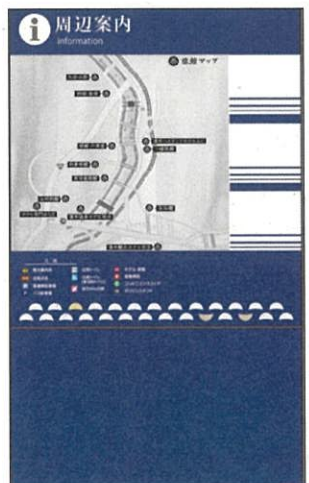
表示基板：彫り込み・墨入れ
本体：自然石グレー色
(文字は地元の子供達に書いてもらう等)



表示基板：ステンレスホーロー板
本体：自然石グレー色



表示基板・裏パネル：アルミ板、合成樹脂塗装
フレーム・支柱：アルミ押出型材



0 50 100 200 400(m)

■色彩案

ダークブラウンなどの景観色のほか下記など検討中。

深緑色（こきはなだ色）

- ・藍染めのなかで最も濃く深い色。わずかに紫を帯びた青色。
- ・縹色は別名：月草色。
- ・湯本温泉の云われの月夜での出来事を連想。
- ・日本の伝統色でもてなす。

長門 湯本温泉の云われ



大寧寺の第3世住職、定庵禪師（1373～1432）の時代、ある月の明るい夜、定庵禪師が寺のまわりを散歩していると、石の上で座禅している老人に出会った。和南が音節をきいて老人は歌でこたえた。
「松風の声のうらなる隠れ家はむかしも住吉の神」
老人は長門一帯（下関）の住吉大明神であった。老人はその夜、定庵の説法の音に聞き惚れ、仏道を悟った。石永34年3月23日、定庵禪師から法衣を贈られた老人は法衣に頼るため、「山の奥に深奥を出ておきましたのてご利用ください。」と告げた。たちまち客が訪れ、老人は大きな客の集まるのて雲の上に乗っていったという。